

2021年11月5日

## ETI-CGCのオフィシャル・ローンチにおける藤井総長の発言

今まさしく英国グラスゴーにおいて、気候変動対策に向けて COP26 が開催されております。温室効果ガス排出の更なる削減により気温上昇を 1.5°C以内に抑えられるかどうか、先進国と発展途上国がどのような協力関係を築けるか、生物多様性などの生態系を保全しながらこれらを実行できるかなどが大きな鍵となっています。このようなタイミングで、日本のビジネス界をリードする皆様と一緒に日本の温室効果ガス排出ネットゼロへの道筋を描き、グローバルコモンズの維持に向けた新たなソリューションを世界に提供していく上で、この ETI-CGC を立ち上げるということは、非常に大きな意義を持ちます。

私は 1 か月ほど前に、東京大学が目指すべき理念や方向性をめぐる基本方針として UTokyo Compass を発表し、知をきわめる、人をはぐくむ、場を作るという 3つの視点から大学としての活動目標を定めました。我々の持つ知・人・そして Neutral な場と、皆様が持つ個々の業界を超えた高い視点とを組み合わせる、更にそこへ世界や日本の知見と科学的洞察をも結集する、この ETI-CGC は、これまでにない新しい形の産学連携のプラットフォームであります。

UTokyo Compass においては、ETI-CGC の設立を地球規模課題の解決の「場」としております。しかし、場が整っただけで解決が導かれるわけではありません。現代の世界が直面している地球規模の複雑な課題への取り組みに際しては、対話と信頼の相互連環が不可欠であり、その相互連環が新たな未来をひらく鍵であると信じています。

ETI-CGC が特定した今後検討すべき課題は、エネルギー関係の課題にとどまらず、産業構造や経済社会システムの転換から行動様式まで、グローバルコモンズの維持にかかわる地球規模の課題であり、その解決を目指す道のりは、海図なき荒海を航海することと同じです。この航海を、ETI-CGC のメンバーの皆様とともに、対話を深め、信頼を構築することで乗り切りたいと考えています。そして、私たちが辿る航路が世界のモデルの一つとなるよう、国際的な対話を重ね、この地球規模課題を世界中の人々と一緒に、解決していきたいと考えます。

ご清聴ありがとうございました。